平成25年度 学校評価実施報告書

学校番号 100 学校名 千葉県立長生高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学 校 経 営	① 基礎学力を身につけた上で、進学希望に合った科目を選択し、発展的内容を学習し、応用力を身につけられるような教育課程を作成した。 ② 学校ホームページに、「生徒会」と「海外向け」のサイトを新設し、より多くの方々が本校の教育活動を理解できるようにした。 ③ 危機管理マニュアルを改定した。備蓄品の整備については、校内仮泊生徒向備蓄品を購入し、300名分を確保した。 ④ 留学生や短期交換留学生の受け入れについては、今年度、大きな進展があった。特に、文科省北米地域との青少年派遣事業により、米国クラシカルハイスクール 生徒23名の受入れ、米国へ生徒23名、教員2名を派遣した。 ⑤ 図書館便りを5回発行した。リクエスト制度を取り入れ、選書のための収集に努めている。新着図書の紹介やテーマ別コーナーの設置等広報活動を逐次行っている。 前期図書館利用状況 (貸出冊数1270冊、リクエスト数121件) ⑥ 部活動加入率 85% (5月現在) (運動部54% 文化部38%) 主な成績として、運動部では剣道部と陸上部が関東大会に出場した。 文化部では、放送部、書道部、写真部が全国高等学校総合文化祭に出場した。放送部はNHK杯全国高校放送コンテストにも出場した。社会研究部は全国高校生歴史フォーラムで全国一位、サイエンス部は各種コンクールで全国一位を含む賞を受賞した。	① 平成27年度入学生の理数科、SSHコースの教育課程の編成が課題である ② 新設されたサイトの形はできたが、情報発信内容の充実はこれからと考えている。ソースを提供する部署との連携を緊密にしていく必要がある。 ③ 今後、防・減災マニュアルの職員配置の見直しをする。仮泊以外の生徒向けの緊急飲食物を準備する。 ④ 短期留学生の派遣システムの作成をどのようにするか検討が必要である。 ⑤ 今後はSSHの課題研究・異文化理解に即した書籍を重点的に選定していきたい。 ⑥ 部活動と学習の両立をどう図るか。部活動の終了時間の明確化、課外と部活動の上手な参加方法について検討が必要である。
学 習 指 導	① 生徒による授業評価アンケートについて、2回実施し、校長との面談を実施した。 ② 今年度、公開の研究授業を3回実施した。 ③ 進学課外については、前期は39講座、夏期休業中の課外は54講座実施した。 ④ SSH課題研究では、生徒の様々なテーマに対し、英語、数学、理科の教員が協力して生徒の指導にあたっている。英語による科学分野のプレゼンテーション指導で特に効果があった。	① 今後も継続して授業評価を実施して、授業評価アンケートを踏まえて授業改善に取り組む体制づくりをする。 ② 学校内では相互の授業参観は教科ごとに活発に行っているが、保護者の参加が少なかったため、実施する曜日の検討が必要である。 ③ 進学課外は目標通り開講できた。生徒の取り組み状況が思わしくなかった。さらに生徒の二極化に対応する措置として課外のねらいを含めて検討したい。 ④ 生徒の課題研究の指導に対する満足度は高いが、今後、教科間のコラボレーションによる指導の機会を増やして検証していく必要がある。
生	① 交通安全指導年6日間、列車巡回指導年4日間、定期考査中の駅周辺等の巡回5日間	① 通学のピーク時は高架下や通学路が混雑して横に広がってしまうこともある。

徒 指 導	実施した。列車内のマナーは概ね良好である。定期考査中の学習プラザや駅周辺での生徒の様子にも問題はない。道路交通法の改正に伴う自転車の左側走行についても対応できていた。 ② 毎月の登校指導の状況からみて、遅刻者は多くないが特定の生徒の遅刻が改善されていない。各学年とも副担任を中心に各階で指導を重ねている。 ③ 生徒情報交換会を月1回を目標に、現在まで6回実施した。5月・11月に特別支援教育・教育相談に関する職員研修会を開催した。特別支援教育推進委員会は情報交換会と兼ねて7月に行った。	② 時間を守れない生徒への共通の事後指導が必要であるが、8時20分の朝読開始時刻までの登校に取り組み、全体的に登校時間が早くなった。 ③ サポートステーション・中核支援センター・医療機関など外部関係機関との連携を図った。来年度も継続していく。
キ ャ リ ア 教 育	① 進路希望調査は4月（1年生は5月）と9月に実施し、結果をまとめて学年の指導に反映できるように情報提供した。さらに結果を学年保護者会（各学年2回ずつ実施）等でも説明し、家庭での指導も併せてお願いした。 ② 1・2年生を対象に「職業を考える講演会」を実施、3年生には進路志望状況に合わせて大学ランク別のレクチャー講座を実施した。さらに生徒の状況に合わせて学年集会等で進路情報を伝達している。また、本校OBが講師となり人生を語る天夢塾を1、2学年全クラスで実施した。 ③ 千葉大学教育学部との連携講座を実施し、約120名の参加者があった。10月31日に大学教授を招いての模擬授業を18講座開催した。 ④ 夏期休業中の「教師体験ボランティア」に延べ50名以上の生徒が参加した。そのほか民間団体が主催する医師体験、看護師体験、薬剤師体験等に30名を超える生徒が参加した。	① 進路希望調査はマーク式の処理をすることで数値的なデータは利用しやすくなり、学年集会や進路保護者会等で活用しやすくなった。ただ処理のスピードが遅く面談等に活用しきれない部分があり、実施時期を含めて改善していきたい。 ② それぞれに、キャリア意識を高める上で有意義であった。イベントは予定通りこなせたが、生徒の状況に応じて行う、学年集会が行事の関係で開けない状況だった。生徒のメンタルな部分の指導が必要な現状にあるので、その手立てを考えたい。 ③ 大学教授による模擬講義は、各大学の好意で非常に充実している。ただ、予算的な部分が不安定で今後継続できるかは、不透明である。 ④ 教師ボランティアは定着して、千葉大学教育学部の推薦入試やAO入試に直結していると思われる。今年は医薬関係の職場体験の参加者が予想外に多かった。生徒は実際の職業体験プログラムへの参加を希望しているようなので、送り出すシステムを整備する必要がある。
特 色 あ る 教 育 活 動	① スーパーサイエンスハイスクールとして、一層充実している。課題研究の主な成果は、 ・千葉大学 高校生科学研究発表会 最優秀賞1つ、優秀賞5つ受賞 ・千葉大学 数理科学コンクール 最高賞の金樺賞、銀樺賞、学長賞 ・千葉県児童生徒科学作品展科学論文の部 千葉県教育長賞、千高教研理科部会長賞 ・高校・高専「気象観測機器コンテスト」最優秀賞 ・マレーシア研修 2/16～22 現地の高校及び大学で14名の生徒が研究発表を行った。 ・3月 千葉大学において、ASEAN 諸国からの派遣団に対して研究発表を行う。 ② テレビ会議システムを新たに契約して利用しやすい環境を整えた。環境問題、文化紹介等のテーマでオーストラリアとの交流を実施した。	① 課題研究は本校の教育活動の柱の一つとして十分に定着してきた。今後は研究の質的な向上を目指す。そのためには、個別の指導を密にするだけではなく、これまで以上に基礎学力の向上が必要である。 ② 国際交流について実施回数の増加と、交流内容の検討を実施していく。

学校評価の公表について (手段・時期等)	・学校評価アンケート集計結果、自己評価及び学校関係者評価をホームページにアップする。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	取組全体を通して、学校改善がしっかりと進められている。 ① 基礎・基本を身につけた上で、進学希望や新学習指導に対応した教育課程を作成したこと、多くの選択科目を設定し、個々の生徒の希望に対応していることは素晴らしい。更により良い教育課程を作成できるよう努力してもらいたい。 ② Webサイトは、外国語版も進めており内容が充実してきた。スーパーサイエンスハイスクールをはじめ多くの取り組みをしているのだから、その情報を積極的に発信してもらいたい。 ③ 危機管理マニュアルの見直しや避難訓練の工夫がなされている。校内仮泊生徒向備蓄品を購入したことは心強い。 ④ 国際交流の推進について、今年度、大きな成果があった。 ⑤ 課題研究に向けた図書も充実させているということだが、今後も図書館の利用率を高めてほしい。 ⑥ 部活動から学べることは多い。今後も、活躍を期待する。	① 今後、進学指導重点校及び次期スーパーサイエンスハイスクール事業の見通しを立てた教育課程の編成をしていく。 ② 中学生、保護者、地域に対して内容面を充実させるとともに、全国の高校や海外からも見られていることを意識して情報発信をしていく。 ③ 広域避難所としての機能の充実を市関係部局とともに進めていく。 ④ グローバル社会で活躍する人材育成に取り組んでいく。 ⑤ SSHの課題研究や国際交流に必要な異文化理解に即した図書を充実させていく。 ⑥ 部活動と学習の両立できるような仕組みづくりを進め、学習時間の確保にもつなげていく。
学習指導	① 生徒による授業評価は定着しており、職員の努力と管理職の授業観察や面談を通して成果をあげていると考えられる。 ② 全校一斉の公開授業は3回実施するだけでなく、教科を中心に相互授業参観を実施していることは、授業改善につながっている。 ③ 生徒のニーズに合った課外授業時数は、2000時間以上に達しており、生徒の満足度も高いことから、保護者としてはありがたいことである。ただし、部活動をしている生徒も参加できるとよい。	① 生徒による授業評価を今後も継続して実施し、更なる授業改善を図っていく。 ② 教科によって授業参観に対する取り組みは異なるので、さらに広げていく。 ③ 課外授業の開講数や時間数等については、今後、講座の絞り込みや内容を検討していく。部活動生徒への対応についても検討していく。
生徒指導	① 生徒の通学状況はおおむね良好である。今後も、地域が誇れる学校であってほしい。 ② 遅刻者が少ないことはよいが、今後も指導を継続してほしい。始業時間前の朝読書の取り組みは素晴らしい。 ③ 生徒情報交換会の定期的な開催や特別支援教育・教育相談に関する職員研修は、生徒理解や個別支援につながる取り組みである。	① 交通安全を含め、通学マナーについて考えさせる指導を進めていく。 ② 今後も生徒一人一人が自律した行動がとれるよう指導を進めていく。 ③ スクールカウンセラーの他、サポートステーション等の外部と連携し、教育相談機能を高めるとともに、研修を通じて職員全体の資質向上を進めていく。
キ	① 学年保護者会を意図的、計画的に各学年2回ずつ実施し、大学進学に向けての学校の取り組みや情報提供をしていることは丁寧である。	① 3年間を見通した進路指導計画を立て、学年保護者会を実施していく。また、各家庭での受験生に対するサポートや最新の情報を提供していく。

キャリア教育	② 入学時4月に1年生対象の学習法オリエンテーションを千葉大学で実施したことは、1年生にとってよい刺激となっていると思う。今後も継続して実施し、意識を高めてほしい。 卒業生や地域の人材を大いに活用してほしい。また、本校OBが直接在校生に人生の体験等を語る機会(天夢塾)は3年目となるが、とても意義がある。今後も継続してほしい。 ③ 大学との連携として、進路に対する目標をよりはっきりとさせることができる。よい取り組みである。 ④ 夏季休業中、教職希望対象生徒に実施した教師体験ボランティアは、順調に事業を進めることができた。関係小中学校からは好評であった。	② 今後、進路行事を3年間という進路指導計画の流れの中での位置づけを更に明確にしてい く。 ③ 生徒にとって意義あるものであるから、今後も継続させたい。 ④ 教師体験ボランティア事業は、派遣希望が多いので調整に工夫が必要である。
特色ある教育活動	スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業の取り組みも4年目を迎えた。連携を軸として多彩な取り組みをしており、多くの成果を上げている。今後も、この特色ある教育活動を地域の学校に広げてほしい。 ① SSH課題研究では、生徒の様々なテーマに対し、英語、数学、理科の教員が協力して生徒の指導にあたっていることは、特筆すべきものである。英語による科学分野のプレゼンテーション指導で効果があったということだが、今後も検証をすすめてほしい。 ② テレビ会議を利用することで、多くの生徒に国際交流の場をつくることできる。素晴らしいことである。	① 課題研究を通じて、理科、数学と英語の教員が横断的に指導にあたることによる学習効果について、今後も検証を進めていく。 ② 海外だけでなく、国内の高校にもテレビ会議を通じた交流を進め、ICTを活用した新しい教育の可能性を広げていく。